北陸の元気を支える建設業の未来創造アクションプラン「北陸けんせつミライ2025」 Ver.2.0

インフラ整備のビジョン

北陸 の 元気 なくして 日本 の 元気 なし！

■ 北陸地域のポテンシャル

① 三大都市圏に隣接する地理的優位性
- 日本列島のほぼ中央に位置し、三大都市圏・東北圏から概ね300km圏域

② キラリと光る「モノ」づくり
- 付加価値の高いモノづくり産業（北陸各県の1人当たりの製造品出荷額は日本海側トップクラス）

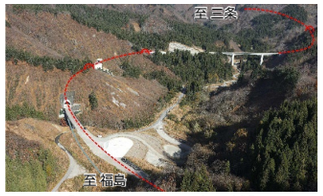
③ 世界に誇る観光地
- 自然や歴史・文化を活かした多くの観光資源

地域の作り手として

［日本海沿岸東北自動車道］

［能越自動車道］

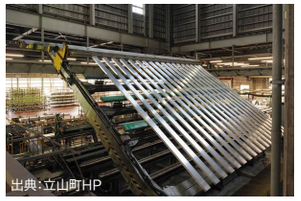
［金沢港 クルーズターミナル］



［国道289号 八十里越］

更なる進化・発展

［黒部立山アルペンルート］



［アルミ製品］

［佐渡島の金山］
（令和6年7月 世界文化遺産登録）

［建設重機］

［兼六園］

［金属製品（カトラリー等）］

■ 地域基盤のリスク

① 頻発する地震

［令和6年能登半島地震］

② 激甚化する豪雨

［令和6年9月の豪雨］

③ 短期集中的な降雪

［令和4年12月の大雪］

④ 進む施設の老朽化

［損傷が進む道路構造物］

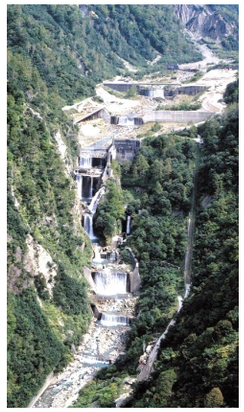
地域の守り手として

［大河津分水路］

［利賀ダム］

［災害対応］

［除雪］


［白岩砂防堰堤］

北陸 の 建設業 の 未来創造 に向けた 3 本 柱 ～ 3K から『新4K』へ ～ 魅力ある建設業に向けて 直轄 から 公共セクター（県・市町村 ）～・民間 へ

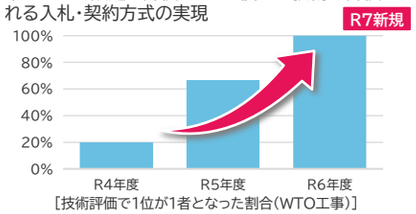
柱 その1 適正利潤の確保

▌物価高騰等に対応した適正な積算・発注

・賃金水準や物価水準の変動に対応したスライド制度や見積活用型積算による適正な予定価格の設定

- **単品スライド**：特定の資材価格の急激な変動への対応
- **全体スライド**：緩やかな価格水準の変動への対応
- **インフレスライド**：急激な価格水準の変動への対応
- **見積活用型積算方式**：歩掛や材料費について標準積算との乖離への対応
- **建設資材の現地実態反映** R7新規：コンクリートやアスファルトについて実勢価格と現地実態価格の乖離への対応
- **地域外からの労働者確保**：労働者確保に要する方策を変更せざるを得ない場合への対応

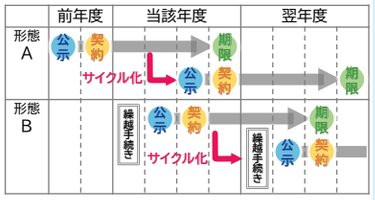
・総合評価落札方式において、有意な差がつく技術提案テーマの設定や評価により、優れた技術が評価される入札・契約方式の実現 R7新規



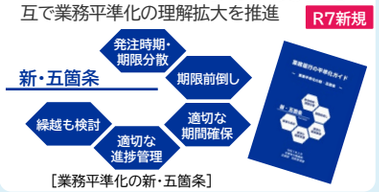
［技術評価で1位が1者となった割合（WTO工事）］

▌適正工期の設定、工期・納期の平準化 R7拡充

・国債・繰越の活用等により業務・工事双方の工期を平準化
・さらに、業務は形態に応じて発注時期・納期をサイクル化して、計画的な業務遂行を実現



・「業務履行の平準化ガイド」により、受発注者相互で業務平準化の理解拡大を推進 R7新規



［業務平準化の新・五箇条］

▌週休2日適正工期発注者宣言制度の浸透 R5～

・週休2日の確保など適正な工期設定にむけ、受発注者相互で一体的な取組の推進

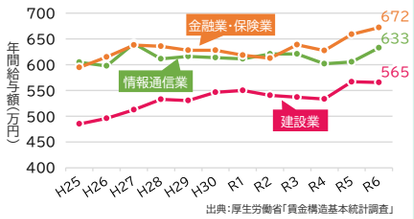
2025 発注機関 100% 宣言 を目指します

週休2日 change!! 適正工期発注宣言 北陸ブロック発注者協議会

柱 その2 変わる待遇・働き方

▌建設業の給与改善

・他産業と開差のある建設業の給与水準を、継続的な労務単価の引上げ等により、労働環境に相応しい賃上げを推進



出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

［北陸3県（全職種単純平均）］
R7年3月：労務単価 30,694円
対前年度比 6.0%増（13年連続の上昇）

▌現場条件・多様な働き方に対応する柔軟な週休2日制度の導入 R7新規

・原則全ての工事で完全週休2日を実施
・施工日が波浪等の厳しい気象条件に左右される工事等は、柔軟な週休2日制度を推進

週休2日の試行を開始（H27～） → 全ての工事で週休2日を導入（R3～） → 完全週休2日（土日現場閉所）の実施（R6～） → 原則 完全週休2日（土日現場閉所） ＋ 柔軟な運用（今後）

▌ウィークリースタンスの更なる高み R5～

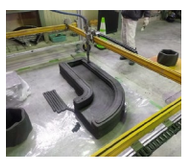
・一週間の受発注者相互のルールを設定

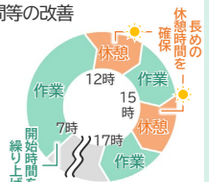
月	火	水	木	金	土	日
①依頼期限としない	・・・	②定時帰宅に心がける	・・・	③金曜日に依頼しない	休養	休養

［更にR5年度より以下も実施］
④ランチタイム・オーバーファイブ・ノーミーティング（昼休みや午後5時以降の打ち合わせをしない）
⑤イブニング・ノーリクエスト（定時間際、定時後の依頼をしない）
⑥金曜日も定時の帰宅を心掛ける 他

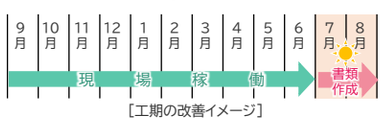
▌気候変動等に対応した適切な工期・作業環境へ R7拡充

・気候に左右されない作業環境の確保や、猛暑に対応した作業時間等の改善


［3Dプリンタを活用した屋内製作］



［作業時間の改善（サマータイムイメージ）］

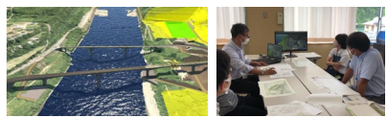


［工期の改善イメージ］

柱 その3 未来につながる建設現場

▌BIM/CIM原則化と人材育成

・3Dモデルの活用等の拡大を推進

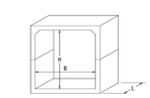

［3Dモデルを活用した工事概要の説明］

・ICT施工研修に関する取組を拡大して、建設工事等の技術者のDXを推進 R7拡充
・西部ブロックにおいても出張DXルームを開催

［北陸インフラDX人材育成センターでの研修］

▌プレキャスト製品や新技術の積極導入 R7拡充

・標準を明確化してプレキャスト製品を積極活用


［大型ボックスカルバート標準規格］

現場条件・運搬条件 → プレキャスト標準規格（標準規格 / VFM） → プレキャスト製品を活用

・プレキャスト要素技術活用促進工事で実践

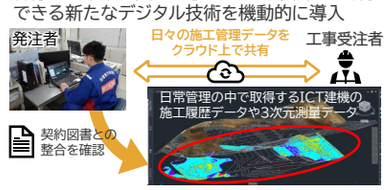
ヤードで鉄筋組立

吊り込み

［プレハブ鉄筋］

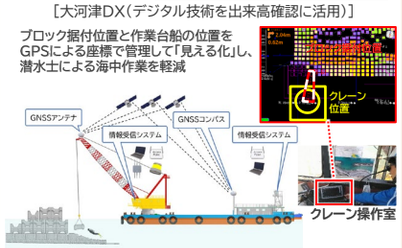
▌施工管理、監督等でデジタル新技術を積極活用 R6拡充

・現行の基準類と異なる手法でも、効率化が期待できる新たなデジタル技術を機動的に導入



［大河津DX（デジタル技術を出来高確認に活用）］

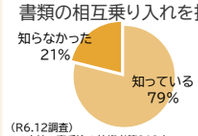
ブロック据付位置と作業台船の位置をGPSによる座標で管理して「見える化」し、潜水士による海中作業を軽減



［ICT技術による海中部のブロック据付け］

▌工事書類の簡素化・統一化 R7拡充

・スリム化ガイドの理解拡大で、更なる高みへ
・直轄と自治体どちらの様式も使えるよう工事関係書類の相互乗り入れを推進



（R6.12調査）n=直轄工事受注の技術者等313人
［スリム化ガイド 認知度］

令和6年2月発刊
［工事書類スリム化ガイド］